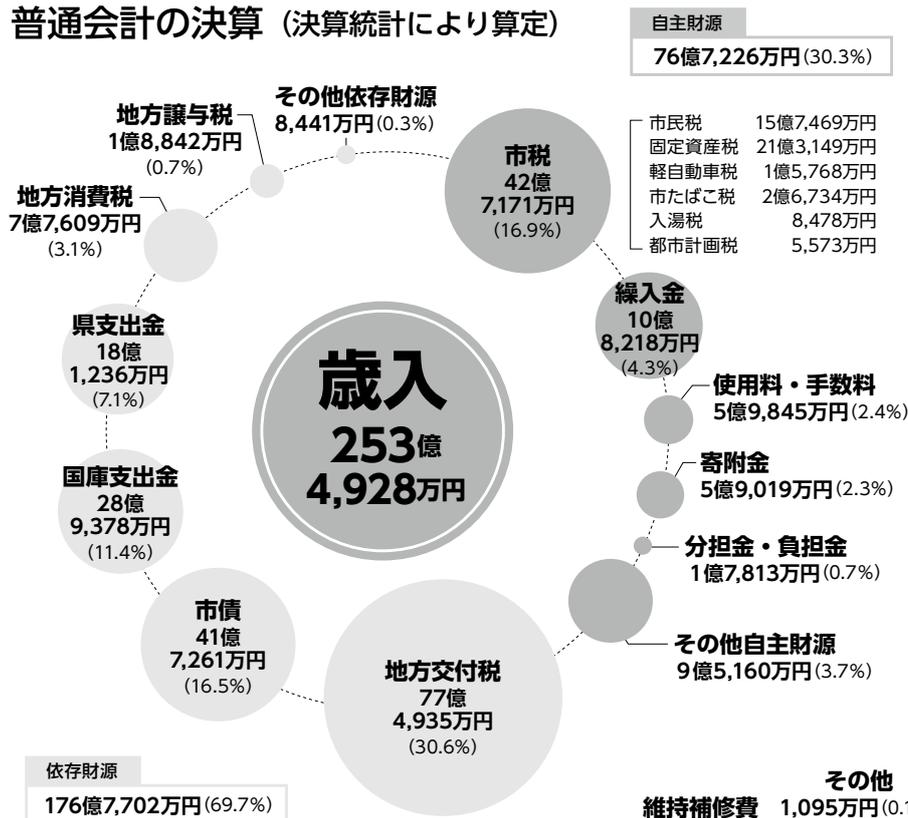


平成30年度 決算状況を報告します

平成30年度の一般会計、特別会計、企業会計の決算が、市議会12月定例会で認定されました。決算統計に基づき、一般会計を整理した普通会計は、歳入が253億4,928万円（前年度比1.1%減）、歳出が243億6,421万円（前年度比1.3%減）で、差し引き9億8,506万円（黒字）。これから、次年度繰越額を差し引いた実質収支は、8億6,301万円（黒字）でした。

普通会計の決算（決算統計により算定）



歳入の状況

主な減少要因

ふれあいプラザなのはな館の改修事業の終了などにより、県支出金が3億1,981万円減少。指宿総合体育館大規模改修の終了に伴い、緊急防災減災事業債が2億2,540万円減少しました。

主な増加要因

ふるさと納税の増加により、寄付金が6,677万円増加。指宿商業高校体育館大規模改修事業や柳田小学校プール改修事業により、過疎対策事業債が4億2,560万円増加しました。 ※いずれも前年度比

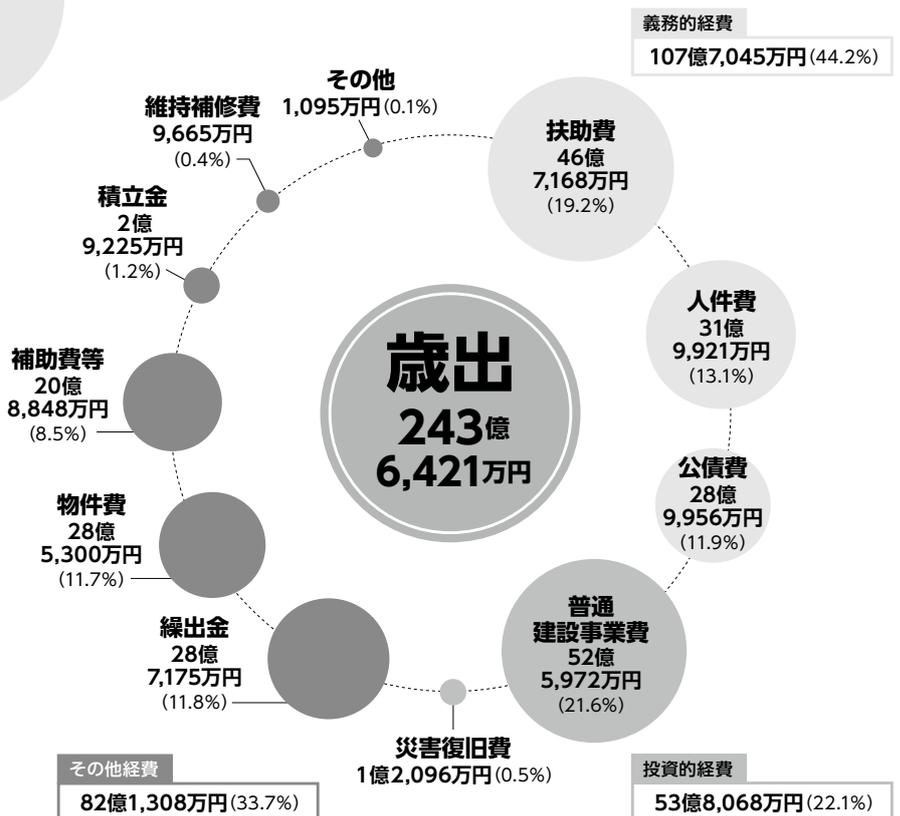
歳出の状況

主な減少要因

一部事務組合への負担金の減により、補助費等が2億2,284万円減少。臨時福祉給付金事業の終了に伴い、扶助費が1億1,488万円減少しました。

主な増加要因

南指宿中学校校舎非構造部材耐震化事業や山川中学校体育館大規模改修事業などの普通建設事業費（補助事業）が、2億7,215万円増加しました。 ※いずれも前年度比



各会計決算の比較

市の会計には、一般会計のほか6つの特別会計と公営企業(水道事業)会計があります。保険料や使用料など特定の収入とその使い道が決まっているものについては、それぞれの収支を明確にするために一般会計と区別しています。

区 分	歳入 (A)	歳出 (B)	差引 (A-B)	歳出の前年度比	
一 般 会 計	253億6,389万円	243億7,883万円	9億8,506万円	-1.3%	
特 別 会 計	国民健康保険	68億7,660万円	67億2,685万円	1億4,975万円	-15.8%
	後期高齢者医療	6億4,854万円	6億4,422万円	432万円	1.2%
	介護保険	52億4,355万円	50億7,860万円	1億6,495万円	4.3%
	温泉配給事業	5,017万円	4,849万円	168万円	16.5%
	唐船峡そうめん流し事業	2億6,611万円	2億5,978万円	633万円	1.3%
	公共下水道事業	9億6,575万円	8億2,407万円	1億4,168万円	-38.8%
小 計	140億5,072万円	135億8,201万円	4億6,871万円	-10.3%	
水道事業会計(収益的収支)	7億6,574万円	6億7,851万円	8,723万円	6.4%	
合 計	401億8,035万円	386億3,935万円	15億4,100万円	-4.6%	

国民健康保険特別会計は、平成25年度を除いて平成22年度から平成27年度まで赤字決算が続いていましたが、平成28年度からは黒字決算となっており、平成30年度も全ての会計で黒字決算となりました。

主な実施事業と決算額

住環境の整備	
ごみ処理事業	1億2,804万円
市内循環バス運行委託事業	1,512万円
住みやすい町なみ整備	
道路新設改良事業	6億6,026万円
十町・湊土地区画整理事業	5億5,374万円
市民の安全・安心	
徳光分団消防車庫新設事業	4,477万円
交通安全施設整備事業	977万円
業務継続計画策定事業	594万円
健康・福祉・子育て推進	
健幸ポイントプロジェクト推進事業	1,741万円
子ども医療費助成事業	1億2,264万円
教育環境の充実	
指宿商業高校体育館大規模改修事業	3億 489万円
開間総合グラウンド改修事業	1億 479万円
地域活性化と産業振興	
共生・協働推進事業	1,756万円
商店街活性化事業	1,019万円
西郷どん観光誘客事業	1,673万円

主な財政指数

区 分	平成30年度(A)	平成29年度(B)	増減(A-B)
財政力指数	0.38	0.38	0.0
経常収支比率	90.9%	91.4%	-0.5%
実質公債費比率	9.1%	8.8%	0.3%
将来負担比率	37.2%	35%	2.2%
財政調整基金積立金	26億1,258万円	23億5,256万円	2億6,002万円
地方債残高	272億8,012万円	258億5,828万円	14億2,184万円

※実質赤字比率と連結実質赤字比率は、黒字のため計上していません。

- ・**財政力指数**…地方公共団体の財政力を示す指数。数値が高いほど自主財源の割合が高く、財政力が強いとされる。
- ・**経常収支比率**…財政構造の弾力性を示すもので、低いほど財政運営に弾力性があり、高いほど硬直化が進んでいるとされる。
- ・**実質公債費比率**…一般会計の公債費に、特別会計と一部事務組合の公債費に充当された繰出金などを加えた、実質的な公債費の割合。
- ・**将来負担比率**…地方債残高や債務負担行為に基づく支出予定額など、将来負担すべき実質的な負債の割合。
- ・**財政調整基金**…災害で生じる予期せぬ支出や、緊急性の高い大規模な建設事業の経費などに充てるための貯金。
- ・**地方債**…地方公共団体が必要な財源を確保するために、国や民間の金融機関から借り入れる長期借入金。

本市の財政状況と今後の見通し

財政状況を客観的に表し、財政の早期健全化や再生の必要性を判断するための指標である健全化判断比率は、いずれの指標も早期健全化基準を下回る数値で推移しています。しかし、有利な市債を活用した生活インフラの整備や大型事業の実施などにより、近年は市債(借金)が増額し、基金は減少している状況です。

今後、歳入では、合併算定替えの終了による普通交付税の減額や、生産年齢人口の減少による市税の減少が予

想されます。歳出では、市民会館整備、指宿港海岸整備や老朽化した公共施設の除却や維持補修、社会保障関係費など扶助費の増加などにより、さらに財源が必要となると予想されるため、事業の緊急度・優先度・市民ニーズなどを勘案し、他の事業とのバランスを考慮しながら予算を編成していきます。